

## NPO法人設立記念講演（東京）

# 人間の苦悩と人生の意味

### －社会福祉哲学の根本問題－

東京福祉大学教授・社会福祉学博士 秋山 智久

1974 シカゴ

## 1 人間の苦悩

人間は種々の苦悩を持っている。これらをどう考えるのか。

- (1) 何故、このように損な身体（健康）を与えられたのか。
- (2) 求めても、求めても得られないものがあることを、どう納得したらいいのか。
- (3) どうしてこんなに自分は運が悪いのか、上手くいかないのか。自分だけが、どうしてこのような目に遭うのか。
- (4) 切り開こうとしても、立ち塞がるのは、運命なのか、自分の努力の足りなさなのか。
- (5) 心から愛していた大切な人を失うことを、どう考えたらいいのか。
- (6) こんなに救いを求めても、神が一切、応えてくれないのは何故なのか。
- (7) ならば、どのように考えれば、心の平安が得られるのか。

ロシア民謡『バイカル湖のほとり』は緑と青の豊かな、世界一の深さと透明度を誇るロシアのバイカル湖を詠っているが、その歌詞の3, 4番は胸を打つ。

「暗き世を呪いて 哀し歌 唱う」

### a 個人（心身）的な苦悩

個人的な悩みには次ぎのようなものがある。

- ・身体的な苦悩： 身長・体重が普通でないこと
- ・心理的な悩み・経済的な悩み・人間関係の悩み。

しかし、それを横から見ている人はどう感じるのか。・運命か、宿命か・個人の責任か、はたまた社会の責任か。

しかし、傍観者はそこにある自らの「内なる差別」に気づかない。内なる差別とは何か、次ぎのような内容を持っている。

- 1 外なる差別がある。
- 2 自分の中の差別を自覚している。
- 3 自分の無意識の差別に気づいていない。
- 4 社会において、自分の意識とは別に、差別者の側に立ってしまっている。

そして、他人の苦悩に直面した時「痛みポーズ」を持った振りをする。

すり替える狡さー、それは、優れた条件を持つ者が、そうでない者に働きかける時に無意識に持ってしまう「高みから見下ろす」姿勢である。

他人の不幸を見た時の気持ちは、「自分のことでなくて良かったという安心感」「可哀相」に思う。しかし所詮、他人事である。自分のことでなくて良かったと思う。

しかし、古代ローマの哲学者、セネカは名著『人生の短さについて』（岩波文庫）の中で次ぎのように言う。

- ・ 「誰にも起こりうるのだ、――誰かに起こりうる出来事は」
- ・ 「或る人に起こることは君にも一つ一つ起こりうることを知るべきである。」

## b 社会的な原因による苦悩

個人的な苦悩より、もっと恐ろしいのは社会的な原因による苦悩である。そこにあるのは、人間の残酷さ（非人間性による残酷さ）である。それを普通の理性的な人間が犯してしまう。

これは社会苦である。社会の構造的な悪によって被る苦しみである。そこにまた、「内なる差別」「我が内なるヒットラー」があるのに気づかない。

## 2 人間の不幸

### 1) 人間苦 : 不条理の世界

- ・ 「不幸な人間は一生不幸に生まれついでいるに違いない」と昭和初期の流行作家・吉田紘二郎は言った（『人間苦』）。

### 2) 人間の苦悩とは何か

#### a 仏教における苦悩

釈尊、14歳の時、釈迦国の四つの門から出て、見た人間の苦悩が 四苦（生、老、病、死）である。これを「四門出遊」という。

生の苦しみをシェクスピアは「人間は泣きながら産まれてくる」と表現した。

ちなみに「八苦」とは、この四苦に次ぎのものを加える。

- 5 愛別離苦（会者定離）
- 6 怨憎会苦

7 求不得苦

8 五蘊盛苦。

- b キリスト教における苦悩  
旧約聖書の「伝道の手紙」は言う。



「既に死んだ人を幸いと言おう。更に生きていかなければならない人よりは幸いだ。いやその両者より幸福なのは、生まれて来なかった者だ。太陽のもとに起こる悪いわざを見ていないのだから。」

（コヘレトの言葉：4章2～3節）。

ヨブの苦しみは、聖書の示す最大の苦悩である（旧約聖書「ヨブ記」）。

- 1 多くの財産：何千頭もの羊や牛を一日で、
- 2 我が子：七人の息子と三人の娘、を失い、
- 3 自分の健康を害し、ひどい皮膚病になる。

しかし、ヨブはそれに耐えた。「主は与え、主は奪う」と。

普通の人間なら、なぜ自分だけに、「こんなことが起こったのか」と問うであろう。そして、思う。神は何をしているのか、しかし神は答えない。これが「永遠の沈黙」（A. ヴィニエ）である。遠藤周作『沈黙』のテーマと同じである。

すると、我が敵は「絶え間なく嘲（あざけ）って言う」、「汝の神はいずくにありや」（詩篇42:11）。

長崎の外海にある「沈黙の碑」は記す。「人間がこんなに哀しいのに主よ海があまりに蒼いのです」（遠藤周作）。

### 3) 人間の幸福と不幸

「福祉」は語義としては「幸福」を表す。福祉の語が最初に出てくるのは、漢の時代の書『易林』である。

「福祉とは、極みなき齡（よわい）を全うし、喜びに与ること」。

世界にはの五大『幸福論』がある。それらは、

・バートランド・ラッセル（英）：アラン（仏）：カール・ヒルティ（スイス）：ショウペンハウアー（独）：三谷 隆正（日本）、である。

・この中で分かり易いのは、ショウペンハウアー（独）の幸福の考えである。曰く、幸福とは「好きなように生きられること」。しかし、権力・富・愛・才能 に満たされたロシア・ロマノフ王朝 11 代皇帝、エカテリーナ II 世は断言する。

「この世に完全な幸福はない」

#### 4) 不幸の研究

反対に「不幸」の研究は多くない。その一つ、シモーヌ・ヴェーユ（仏）の『シモーヌ・ヴェーユの不幸論』は言う。

他人の不幸を「心から諦めて認め得たことは一度もありません。これはまさしく、神の意志に服従するという義務に対する重大な違反です」。

神に逆らってまでも、他人の不幸を諦めて認めることはできないと言うのである。

日本では、中島 義道『不幸論』（PHP 新書）がある。

現代社会の現象の根底には、ニヒリズム = 生きる意味への懐疑（実存的欲求不満・実存的虚無感）がある。具体的には、自殺・薬物・アルコール依存・犯罪・差別・人間軽視、として顕れる。

それらの根底にある理由は、面白くない現実（無知・独断・差別）、低迷する精神、無気力、底知れない無意味感である。

「社会苦」である。

### 3 人生は無意味なのか

#### 1) 無常 — 三つの無常

山折哲雄『無常という名の病気』（サンガ新書、2008）で、無常とは「日本人の底流にあるもの」という。我々も、諸行無常という（『平家物語』）。

では「無常」とは何か。山折哲雄を三つの無常をいう。

1 全ては変わる。— 不変なものはない。ヘルマン・ヘッセは『ゴータマ・シッダルダ』の中で、ガンジス河を見続ける釈迦を描く。そして思う、目の前の水は、少し前の水と違う。鴨長明も『方丈記』の中で同じことをいう。

「行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまることなし。世の中にある人とすみかと、またかくの如し。」

良寛は人生の最後を描く、「うらを見せ おもてを見せて散るもみじ」。

諸行無常に似た表現に「無常迅速」がある。年を取るに従って、時間の流れが速くなることをいう。

浄土真宗の中興の祖、蓮如は言う。

「されば、朝（あした）には紅顔（こうがん）ありて、夕（ゆうべ）には白骨（はっこつ）となれる身なり。」（『白骨の御文章（ごぶんしょう）』）

この無常迅速を科学的に証明したのが、「ジャンネーの法則」である。19C、フランスのポール（哲学者）、ピエール（心理学者）の叔父・甥が指摘する。「一日の時間の長さは、年齢に反比例する」。

無常は、個人の死：人類の滅亡と続く。

2 人は必ず死ぬ。

3 人類は滅びる。

地球上に出現した生物 1000 万種の、実に 70%~90%が 既に絶滅してきた。

NHK『女と男』で指摘した。

「23 対の染色体の最後の 23 番目

の性染色体にある Y 染色体が縮小している。500～600 万年後には Y 染色体は消滅し、人類は滅亡する。」(角川文庫、2011)。

このことは、レヴィ＝ストロースの次の有名な言葉を想起する。

「世界は人間なしに始まったし、人間なしに終わるだろう。」(『悲しき熱帯』)。

## 2) 「宇宙の子守歌」

兵庫県知事を 2 期勤めて、潔く引退した、阪本勝が朝日新聞に投稿して、多くの人を唸らせた。

自然や歴史は、人類を滅亡させようとして来た、やがて人類は滅びるであろう、「この寂しさに耐えることができない。誰か私に子守歌を歌っておくれ」。

## 3) 人生に生きる価値はないか？

中島義道『人生に生きる価値はない』という(新潮社、2009.2)。その理由は、「どうせ、すぐ死ぬのだから」である。

それに対して、チェーホフの言葉は、見事な反論となる(『灯火』、1888)。

「人はそういう思想を以て生涯を終わるべきであって、始めるべきではない」 → 「それは階段の最上段に一気に躍りあがるような方法」であると。

ヴィクトール・フランクルは次のような知人の言葉を紹介している。

「人生に耐える唯一の方法は、なんらかの課題をいつもかかえておくことだ。」

人生の岐路に立った時の、**人生の選択における基準**とは何であろうか。

- 1) 損か、得か
- 2) 面白いか、退屈か
- 3) 楽しいか、つまらないか
- 4) 格好がいいか、否か
- 5) 役に立つか、たたないか
  - 1 自分のため
  - 2 家族・友人のため

## 3 世の中のため

6) 意味があるか、ないか。

この「意味」に注目したい。

## 4 意味意志 (意味への意志)

### 1) ヴィクトール・フランクルの自己超越

遺伝と環境から超越することが大切という。

「その人自身が如何なる人間であるかが人生の側から問われている。」しかし、「その意味は人によって異なる」

そのためには、精神の抵抗力をつけること。

フランクルは(「一日一回、心から笑うこと・一日一回、感動すること」)をナチスの絶滅収容所の中でのモットーとした。

フランクルは強制収容所で一日の過酷な労働の後に、仲間と友に見た夕陽の感動を次のように描いている。「世界ってどうしてこう綺麗なんだろう」

### 2) 意味への航路

人生の側が人に意味を問うのである。

フランクルは言う、「意味探究者としての人間は最後まで、人生から意味を問われる。」と。(人生の一回性・唯一性)である。

それを果たすには、日々、個々の具体的課題を果たすこと、であると言う。

「人間は、どれほどみじめな条件や状況にあっても、なんらかの意味を見いだすことができる」。

### 3) P I L (purpose in life)

人生は「意味の発見と実現」である、(意味発見段階)である。

日常の個々の具体的意味を問うことである。“一足飛びに、最後の日は来ない”のである。

## 5 三つの価値

ヴィクトール・フランクルは三つの価値を言う。

- 1) 創造価値 創造 行動・作品
- 2) 体験価値 体験 愛すること
- 3) 態度価値 態度 極限状況における人間

アウシュビッツ強制収容所の中で、他者に代わって処刑されたコルベ神父の態度は、これであった。

## 6 苦悩の意味

苦悩の意味は何であろうか。

- 1) 「苦悩することで、意味のある人生をおくることができる」 (フランクフルトは、詩人リルケから学んだ)。
- 2) 「決して戦いを放棄しない」 (フランクフルト)
- 3) 試練からの脱出

新約聖書 コリント人への手紙第一 10：13、は言う。

「あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」

## 7 意味への航路における他者の存在

### 1) 孤独 (孤立)

「咳をしてもひとり」 (尾崎放哉)。不定形の俳人、尾崎放哉は、東大経済学部を出て、大手の生命保険会社の支店長をしたが、やがて放浪の旅に出て、晩年を小豆島で過ごした。

釈迦も、西行も子を捨てた。

同じような孤独の表現がある。

「底冷えのような寂しさ」 (和辻哲郎)

「骨の凍るような寂しさ」 (阿部志郎)

しかし、一方で、歌人：俵 万智は唱う。

「寒いねと 話しかければ 寒いねという声の返ってくる暖かさ」

### 2) 立ち直る過程

主観的ではない客観的な支援が必要である。

ドラマ14世の言葉 (京都での講演) がある。

会場に居た、不安に満ちた女子学生を壇上に招いて肩を抱いて言った。

「恐れることはない (Do not Worry !)

女子学生は、ただうなだれて、壇上から降りた。

### 3) 自分にも起こる現実

人生の苦悩は他人ごとではない。

繰り返すが、セネカは言った。

「誰かに起こりうるのだ、一

誰かに起こりうる出来事は」

神谷美恵子は『人間をみつめて』の中で書く。

「らいの人に 一なぜ私たちがなくあなたが？あなたは代わってくださったのだ」

国立療養所：長島愛生園での情景である。

### 4) 他者への「負い目」

柳田邦男は『サクリファイス』で書く・

「今ここに自分が生きていられるのは、世界のどこかで誰かが犠牲になっているからだ」

日本本土は、3回、沖縄を犠牲にしてきた、薩摩藩の琉球王国への侵略、太平洋戦争末期の沖縄戦、戦後の米軍基地の押しつけ。このことに乗っかって、本土の現代の「平和」がある。

犠牲の最終的な指摘は、倉田百三 (大正期・昭和初期の思想家) によってなされる。次のような痛烈な言葉が展開される。

「この肉体、この血の一滴も、他の『生命』の犠牲でないものはない。この戦慄すべき根本事実を人はどうしてもっと深く思わないのであろうか。」 (『法然と親鸞の信仰 (下)』講談社学術文庫、1977。)

## 5) 「雑毒の善」

中国の浄土教の祖、善導大師から、親鸞に伝わった思想である。相手のために「良かれ」を思っていた善意に秘められている「身勝手」なとげ・優越感、善意に潜んでいる雑毒とした悪である。

「他者加害」である（親鸞『浄土文類聚鈔(しゅうしょう)』)。

ダンテは『神曲』の中で言う。

「地獄への道は善意によって敷き詰められている」

## 8 超意味 (究極の意味)

「世界は超意味を持つ(世界は意味を超えている)」とフランクフルトは言う。

なぜ、フランクフルトは最後に「宗教」に到達したのか？

### 1) 現代：神の不在の時代

「中世のヨーロッパは神を殺した」のである。

かくして無神論の時代が来た。

無神論とは何か。

三つの無神論がある(独、マースブルク大学教授：エンハンスマーティン・バールト)。

#### 1 哲学的無神論

フォイエルバッハの『キリスト教の本質』に代表される。大島康正のいう、ヘレニズムにおける「人が神を造った」という「人神」である

#### 2 実践的無神論

現代の、特に青年たちの思考である。

「神」を信じないことが、「科学的」であるという考えである。

NHKの「アインシュタイン・ロマン」は描く。グランドキャニオンから、落ちて、途中の木にぶら下がったアインシュタイン・ロマンが「助けてくださるなら、神を信じます」と言ったが、木から手を離せない、「口先だけ」の信仰である。

弘法大師は、四国・善通寺市の我拝師山から、「自分に生きる意味がないなら、滅ぼし給え」と飛び下りた。

### 3 反宗教的無神論

ニーチェは「神は死んだ」という(『ツアラトウストラはかく語りき』)。

何故、宗教が必要か。

『罪根深』というのは、—おおよそ善根すくなきもの、罪業おおきもの、善心あさきもの、悪心ふかきもの、かようのあさましき、さまざまのつみふかきひとを、『深』という。(『真宗聖典』)

(罪根深重— ざいこんじんじゅう)の教えである。

親鸞はさらに言う、「悪性さらにやめがたしところは蛇蝎のごとくなり 修善も雑毒(ぞうどく)なるゆえに 虚仮の行とぞなづけたる」(『正像末和讃』)。

聖書も言う。

「正しい者はいない。一人もいない。—彼らのどは開いた墓のようであり、彼らは舌で人を欺き、その唇には蝮の毒がある。口は、呪いと苦みで満ち、足は血を流すのに速く、その道には破壊と悲惨がある。彼らは平和の道を知らない。彼らの目には神への畏れがない」(ローマ人への手紙3：10～18)。

どうしようもない人間の罪・悪を、絶対者の前にさらけ出すことが必要なのではあるまいか。

## 9 「立ち尽くす実践」—援助専門職とは何か

その罪深い人間が、苦悩を抱える「人」に働きかけようとしている。果たして「人」には援助できるのか。

おそらくは、究極的には何もできない援助専門職は、ただ「人」がより幸福になるように祈るのみではあるまいか。

この究極の実践を「立ち尽くす実践」という。

援助専門職は「寄り添う」ことが可能なのか。  
自分の弱さを見つめる時、「逃げ出したい」  
と思うのではないか。

「立ち尽くす実践」とは、「何も出来ない実践」、  
しかし、「関わり続ける（続けようとせめて思  
う）実践」である。

四国のお遍路さんは、遍路傘・杖に「同行二  
人」と記す。空海は苦難の道に常に一緒にいる  
という。これは、援助専門職の「一人で行かな  
いで一緒に参りましょう」という姿勢である。

筆者は、人生において最も必要なものの一つは  
「明るい意欲」だと思っている。

最後に、フランクフルが伝えた幾つかの言葉を  
繰り返して、論を終えたいと思う。

- ・「神以外はもうなにもおそれなくていい」
- ・「苦悩することで、意味のある人生をお  
くることができる」

そして、「それでも人生にイエスと言おう」  
(強制収容所の囚人たちが唱った歌)。

最後に一つの詩を紹介しておこう。


「自分の感受性くらい」 茨木のり子

ばさばさに乾いてゆく心を  
ひとのせいにはするな  
みずから水やりを怠っておいて

気難かしくなってきたのを  
友人のせいにはするな  
しなやかさを失ったのはどちらなのか  
苛立つのを  
近親のせいにはするな  
なにもかも下手だったのはわたくし  
初心消えかかるのを

暮しのせいにはするな  
そもそもが ひよわな志にすぎなかった  
駄目なことの一切を  
時代のせいにはするな  
わずかに光る尊厳の放棄  
自分の感受性くらい  
自分で守れ  
ばかものよ

(神奈川県在住)



C I F ジャパンは  
人材の宝庫  
ですね!

## 参加者の感想

秋山先生のテーマは今の私のテーマでもあります。  
ややもすれば資格対策に追われがちな教育現場ですが、  
福祉哲学を深めていくことは実は今の時代の日本の現  
場にもっとも必要なことかもしれません。現場に居る  
ものとしてつくづくそう思います。

前号の坂本さんの論文とあわせてとても良い刺激を  
受けました。

今回青木さんとも初めてお目にかかり、イキイキと  
したご報告を伺い感謝でした。

こうしてみるとC I F ジャパンは人材の宝庫だとお  
もいます。いろいろ課題はありますが、一歩一歩だと思  
います。お金はなくてもいろんな可能性があると思  
います。充実した良い会になりましたね。皆様有り難  
うございました。

(社会福祉法人理事長)